

高松エステート株式会社

エニシエ通信

発行年月日
2024年
弥生号

春を代表する球根花 花言葉は「思いやり」
太陽に向かって元気に咲く



エネルギーな
チューリップ

まだまだ肌寒い三月ですが、もう春はすぐそこまできていますね。そんな春めいた季節には色々な花が咲きほころびて気分がよくなる季節ですね。今回はチューリップを貼り絵で再現してみました。細かくちぎった紙を色分けして形通りに貼っていくことや四枚をはり合わせる時にきちんと絵柄が合うようにするところ、そして一見簡単そうに見える空のグラデーションになるところがなかなか根気のいる作業でした。とりのこ用紙四枚分の大きさなので、とちても迫力のある作品に仕上がりました。このチューリップのように明るく元気に過ごしたいですね。

7日
B.T様

三月生まれのおめでとうさん

9日
U.C様

11日
T.A様

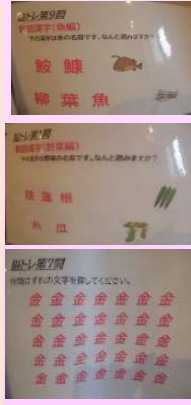
20日
U.S様

31日
M.Y様

今月のお誕生日月の方は五名でした。皆様おめでとうございます。

今月のエニシエ『脳トレ』！

今月も職員作成の『脳トレ』が出来上がりました。皆さんチャレンジして下さいね。全問クリア目指して頑張ってください。



チューリップの花壇



今回は折り紙を使ったミニ花壇のチューリップを作成してお部屋に持ち帰り頂くイベントにしました。色とりどりのチューリップを2輪折り紙花壇に植えて、かわいらしい花壇の出来上がり。一人1花壇にしていたのですが、速さの売れ行きでした。

入居者のM様作
お内裏様とお雛様



とてもかわいらしいお内裏様とお雛様が玄関でお出迎えしてくれています。手先が器用で色々手作りされています。素敵な作品を有難うございました。

エニシエ通信について
エニシエ通信では行事、イベントその他当施設の情報を定期的にご報告させていただきます。こんな情報が欲しい！あんな内容が載せて貰いたい！などご座りましたら何なりとお問い合わせ頂きますようお願い致します。

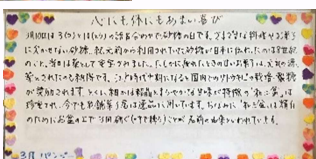
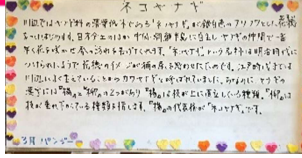
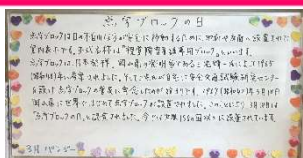
高松工ステート株式会社

エニシエ通信

発行年月日
2024年
弥生号

三月三日はひなまつり

☆毎週季節に合うコラムを
スタフが作成♪



今月二十日は季節の献立の日

月一回はいろいろな場所の郷土料理や季節にちなんだメニューを厨房が考えてくれています。今月は『春分の日』にちなんだ料理です。今回は春らしいメニューが並んでいますのでそれぞれをご紹介いたします。皆さん、たくさん召し上がって元気で長生きして下さいね。

いつの間にか羽織るものが少し薄くなつて、だんだんと春の暖かさに誘われてついついお出かけしたくなる初春の季節ですね。さて、そんな今回のイメージフラワーはパンジーです。コラムは「ネコヤナギ」心にも体にもあまい喜び、「点字ブロッコ」の目でした。ネコヤナギは猫のしっぽの比喻から名がついたのですね。

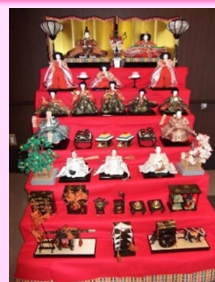
春分の日
3月20日(水) 昼食提供

山菜ごはん
栗ふら・天つゆ
菜の花の白和え
味噌汁(たまご)



【山菜ごはん】
山菜はわらび、こごみ、タラの芽、ふきのとう、ふきなど様々なものがあります。まさに春をぎゅつと凝縮して味わうかやくご飯ですね♪
何の山菜が入っているのか楽しみですね♪

【菜の花の白和え】
春の料理の定番ともいえますね。ほきりした緑に木綿豆腐と味噌の味付けがなんとも優しい一品ですね。



「あかりをつけましょ、ぼんぼりに♪お花をあげましょ、桃の花♪五人囃子に笛太鼓♪今日は楽しいひな祭り♪」三月三日は楽しい雛まつりの日ですね。

エニシエも女性が多いのでひな人形に皆様興味津々でした。今回は1階玄関に配置したので、家族様はじめ、素敵ですねと声かけを頂きました。
五階にも素敵なひな壇を以前お勤めだったタツフさんのご縁で、寄付して下さいました。
女の子がいる入居者さんは特に昔を懐かしんで雛壇の前でお話して下さいました。

〜柳川雛祭り〜



エニシエ写真館



立花園千代

ページ: 128の2面

掲載: 坂本 藤子

立花園千代 (たはば ぎんちよ、永徳12年8月13日(1569年8月23日) - 慶長7年10月17日 (1602年11月30日)) は、戦国時代の女将軍。

略伝 (概要)

大友氏の有力家臣 (別当) であった戸次重定 (立花重定) の一人娘として筑後国山形郡 (現・福岡県久留米市) の豪族 (立花氏) 家に嫁す。名にちなまれる「千」の字は「機織りの器を置く」という意味合いを含めて重定の諱、機織りが付いた。母氏には、重定の妻・仁左衛門の姉妹を兼ねた。城守重定が討たれる。

天正3年5月28日 (1575年7月6日)、重定が子重の時に立花家の家督、城守、城番の一任を譲られている。重定は家督となるべき重子があらず、一人娘に家督を譲るため、重定の弟立花宗茂に家督を譲る。重定は重定の本意を知らず、名にちなまれる「千」の字は「機織りの器を置く」という意味合いを含めて重定の諱、機織りが付いた。母氏には、重定の妻・仁左衛門の姉妹を兼ねた。城守重定が討たれる。

天正3年5月28日 (1575年7月6日)、重定が子重の時に立花家の家督、城守、城番の一任を譲られている。重定は家督となるべき重子があらず、一人娘に家督を譲るため、重定の弟立花宗茂に家督を譲る。重定は重定の本意を知らず、名にちなまれる「千」の字は「機織りの器を置く」という意味合いを含めて重定の諱、機織りが付いた。母氏には、重定の妻・仁左衛門の姉妹を兼ねた。城守重定が討たれる。

先に立花重定がなくなった立花家の家督を継ぐことを望んだが、大本家は重定の継嗣を立花重定の子と認めることを望んだともいわれる。重定が立花重定を継ぐのは慶長7年 (1574年)、立花重定が討たれるからである。

★お知らせ★
平素よりご協力、有難うございます。徐々にワクチン接種を進めてはいますが、世間ではまだまだコロナウイルスが猛威を振るっております。つきましては、変わらず、面会は三十分内で、マスク、消毒、検温をお願いいたします。早く完全に終息することを切に願います。何卒宜しくお願い致します。

